

# 準天頂衛星システムの全体構想



中島 務\*



下村寛士\*\*

## 要 旨

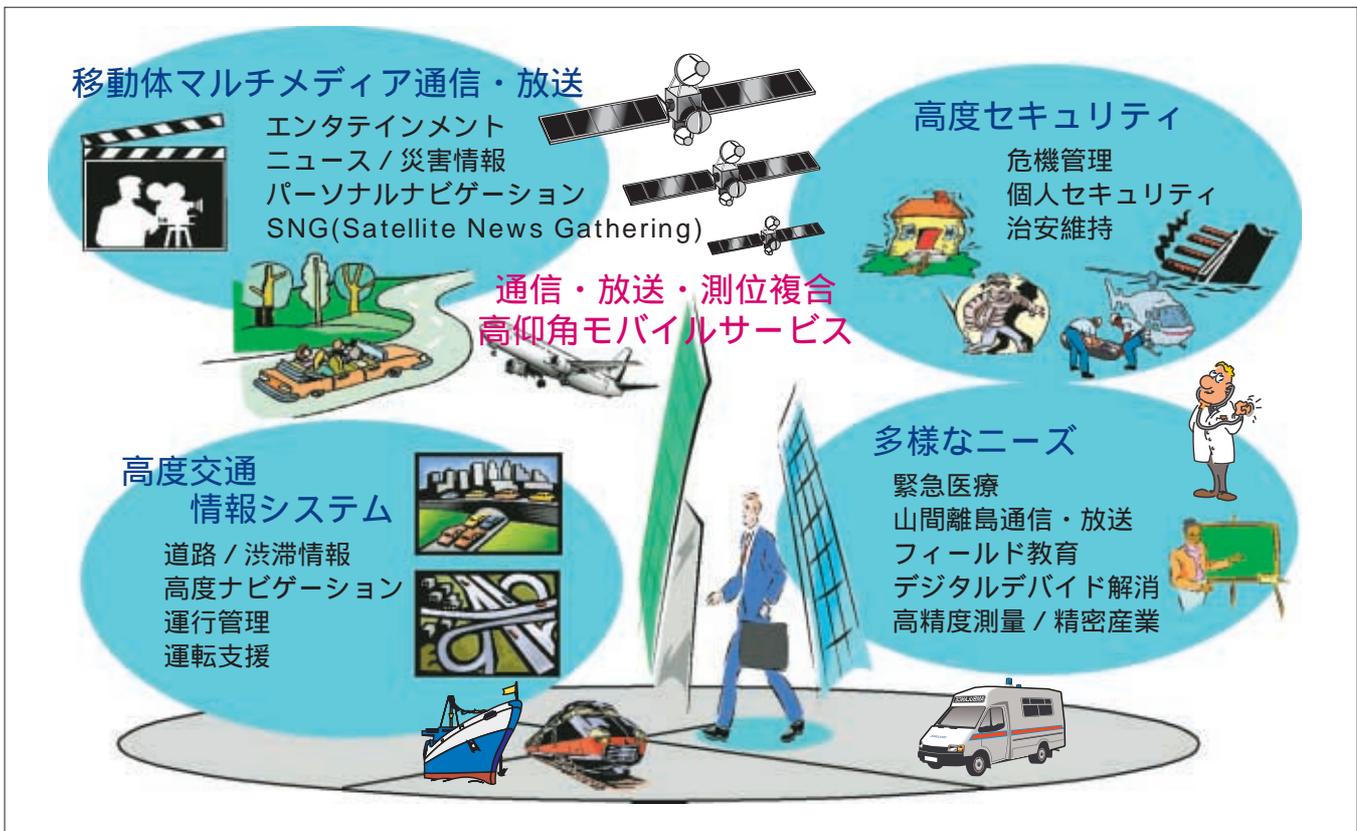
インターネットの発達に伴いIT(Information Technology: 情報技術)に対する依存度が飛躍的に進み、その影響力は日々増大している。その進化するIT社会におけるニーズを満たすためには、ネットワークインフラの更なる整備が必要であり、地上と宇宙のITインフラを融合させることが不可欠となってきている。

衛星通信には、“広域性”“同報性”といった他の通信手段にないメリットがある。この特長を生かし、静止衛星、観測衛星、測位衛星(GPS)など機能の異なる衛星群を有機的に統合させ、宇宙に大きなネットワークシステムを構築するという構想を“IT宇宙インフラ”と名付け三菱電機は提案してきた。この流れは国家的構想としても認知されており、宇宙インフラとして今最大の注目を浴びているのが準天頂衛星システムである。

準天頂衛星システムは、3機の衛星が日本の天頂付近を

代わる代わる飛行し、サービスを提供する。準天頂衛星は、静止衛星では高仰角が得られない中緯度に位置する日本に適する衛星システムである。ビル、山陰に遮られない特性から、国土のほぼ100%をカバーし、衛星利用高度モバイル通信に最適なものと位置付けられる。さらに、GPS(Global Positioning System)を補う高精度測位サービスの提供による位置情報サービスの新たな利用の広がりが期待される。

このように、準天頂衛星システムによる効果は、インフラ整備による通信容量の増大という直接的な貢献に加えて、移動体通信・放送と測位といった今まで個別であったこれらのサービスを複合し、一つのネットワーク・ソリューションとして、新しいサービスを創出していくことであると考えられる。



## 準天頂衛星システムによるサービスイメージ

準天頂衛星システムは、次世代IT宇宙インフラとして、通信・放送・測位を融合させた新しいサービスを創造する。